

2．治療に協力して下さい！

生徒の年齢が低い場合には、眼鏡やアイパッチの装着を嫌がるが多々あります。しかし、眼鏡を常用し、アイパッチを決められた時間装着することが、弱視を治す唯一の治療なのです。生徒が自分で勝手に眼鏡やアイパッチを外すことを、家庭での取り組み同様、決して許さないで下さい。（ただし、体育の時間などにおいて、眼鏡の装着や、アイパッチで良い方の目を隠して授業を受けることが、危険だと感じられた場合においては、先生の判断にお任せいたします。）

3．理解して下さい！

アイパッチやアトロピン点眼での治療を始めたばかりの子供は、「視力が悪い方の目だけで過ごしている」ということを、ご理解下さい。眼鏡をかければ1.0見えるようになる普通の屈折異常と違い、弱視の子供は、眼鏡をかけても視力が悪いのです。必然的に、細かい作業や長時間の読書が苦痛となります。また、良い方の目が使えないことにより、視野が狭まる上に遠近感がなくなり、バランス感覚が悪くなることも考えられます。場合によっては、黒板が見やすいように席を移したりするなどのご配慮をいただくことも必要となるかも知れません。

アトロピンを使用している子供については、瞳孔が常に開いた状態であるため、暗い室内でもかなり眩しく感じます。直射日光のあたる屋外での活動は制限される場合もあると思います。子供が強い羞明感を訴える場合には、日陰に移動させるなどご配慮下さい。

弱視治療は、短期間で終了することはほとんどなく、短くても数ヶ月、長ければ数年かけて、継続して行われます。良く見える方の目をあえて使えない状態にし、見えない方の目だけで、毎日を過ごさなければいけない子供は大変です。しかし、これが唯一とも言える治療法である以上、どうか暖かい目で見守り、サポートして頂けますよう、お願いいたします。

このハンドアウトに関するご質問・お問い合わせは下記までお願いいたします。

弱視治療児支援グループ

あいぱっちくらぶ

URL <http://www.eypatchclub.jp/>

e-mail webmaster@eypatchclub.jp